

Q

11

・複数のアレルギーを持っており、ゴマアレルギーの場合、関連してライ麦、麦芽関連のものでも出てしまう事を調べながら知りました。モルトエキス、麦芽糖、パンも麦芽系は気を付けています。このように他の食材も含めて関連して気を付ける食材があるのであれば知りたいです。

A

11

・食物アレルギーの交差反応は個人差が大きく、例えばゴマアレルギーの患者様でもゴマのどの成分に対してアレルギー反応を起こしているのかによって、関連してアレルギーが出る食物の範囲は変わってくる可能性があります。極端な食事制限に繋がってしまうのは問題ですので、患者さん毎に主治医の先生と相談しながら治療を進めて頂ければと思います

Q
12

・食物アレルギー症状がでた際、エピペンを持っていない子は状況により救急車対応かと思いますが、救急車到着までの間に少しでも何かできることがあれば教えてください。

A
12

・まずはエピペンを使用する状態では必ず救急車を呼んでください。これはエピペンの所持の有無は関係ありません。救急車来院までは心拍、呼吸に注意し、必要であれば心肺蘇生をお願いします。

Q 13

・ 保育園で慢性的なスキントラブルを抱えている園児がいます。Aの皮膚科ではアトピー性皮膚炎と診断されたが、Bの皮膚科では乾燥肌と診断されました。現在は保湿クリームのみで経過をみていて、Bの皮膚科にしばらく通院していますが、症状の改善はみられず、時々悪化して赤くただれることもあります。このような場合、改善が見られないので、再受診または他院受診をすすめても良いのでしょうか？

A 13

・アトピー性皮膚炎の診断は、「アトピー素因があって、6カ月以上慢性的に皮膚症状が続くとき」に付けられます。そういった意味で、Bの皮膚科はまずはいきなりアトピー性皮膚炎とは言わなかったものと推察します。アトピーとしても乾燥としても、湿疹病変があればステロイドなどの抗炎症外用剤をより積極的に使用します。ただれているような症状があると、とびひや水いぼなどの皮膚感染症の母地にもなりますし、集団生活としてももっとコントロールしていただきたいところですが、はたから見て「漫然と保湿剤のみでの治療が続けられている」時には、医師の方針と保護者の希望が合致している場合もあります。Bの皮膚科との信頼関係を崩すようなアドバイスではなく、まず、もっとよくしたいとBの皮膚科へしっかり相談してみる、必要ならば他の皮膚科（高次医療機関でも）へ意見を聞きに行ってみたいと申し出てみる、といったことをアドバイスするのがよいかと思います。

Q 14

・食物依存性運動誘発アナフィラキシーと思われる症状が何度かあり原因となる食物を知るために受診しましたが、医師からは「運動誘発性アナフィラキシーは血液検査では陽性にならないことが多いので食物を特定は難しい。大きな専門病院で詳細な検査をすることはできるが食物を特定することは難しいのではないか」と話がありました。血液検査は陰性でした。

・食物依存性アナフィラキシーとはどのようなものか、どのような検査があるのか、給食を食べているこどもへの対応はどのようにすればよいか教えていただきたいです。

A

14

- ・食物依存性運動誘発アナフィラキシーはまずは問診で診断をします。
- ・それで十分に診断が見つからないときには食物運動負荷試験で診断をします。
- ・給食については、原因抗原を食べたら3～4時間は運動しない、運動するなら原因抗原を食べないということです。